



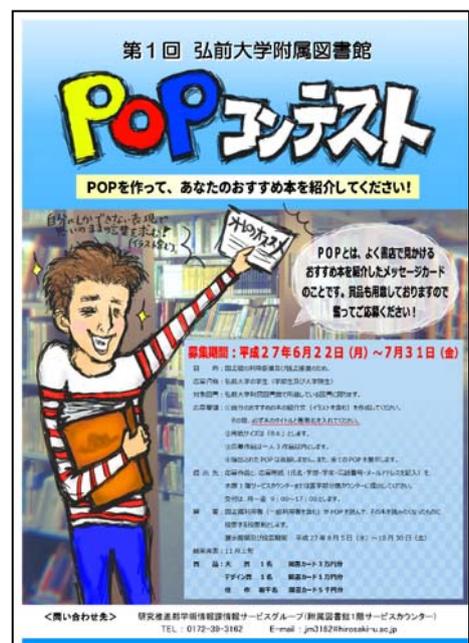
THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.42 2015.11

目次	
巻頭言	2
第1回POPコンテスト	3
本との出会いを楽しむ<15回>	7
図書館に関する話題<15回>	8
他大学図書館紹介	10
Library News	11
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	12



POPコンテスト展示の様子



広報用チラシ

学術論文いま・むかし

理事（研究担当）・副学長 柏倉 幾郎



「巻頭言」大いに悩みましたが、昨年本職就任後間もなく取り組んだ弘前大学研究力調査の過程で感じた大学図書館の多機能な役割と学術論文について自らの乏しい「経験」を交えて述べてみたいと思います。

今から 30 年以上遡る私が大学教員になった駆け出しの頃に、「学位を取るには自分の背丈以上の論文を読まなければならない」云々の話を聞かされた記憶があります。当時は、学術論文はもとより学術雑誌は「紙媒体」のみで、図書館はこの紙媒体の知の集積庫の役割を担っていました。この話もある意味「紙」という物質量の「かさ」で推し量る事が出来ましたが、その後時代が進むにつれて PDF ファイル等の電子ファイルの利用が進み、今や学術論文はファイルでのやり取りになり、さらには Web 上にのみ存在するようなオープンアクセスジャーナルが登場し、学術論文を取り巻く状況は大きく様変わりしました。かつては、文献を探しに図書館に行き、Current contents や Index Medicus 等の 2 次検索媒体から必要な論文を探し出し、それを求めて他大学の図書館に出かけたり、所属大学の図書館から複写請求した、という作業はほぼ不要となってしまいました。今や PC の前から動かずとも必要な情報はほぼ入手可能となり、ある意味大変便利にはなりましたが、一方図書館は遠くなってしまいました。しかしこうした情報探索や収集の経路が図書館であり、裏を返すと現在の図書館の役割や機能は、建物として存在している以上に多機能になっている事の表れでもあります。

インターネットの普及拡大と通信速度のアップ

には目覚ましいものがあり、まさに隔世の感があります。私がかつて経験した、手書きや英文タイプで原稿を作成し、ロットリングでの作図、清書原稿と複写原稿を必要部数綴じて、分厚い書留や Air mail で郵送し、返事が来るのを首を長くして待った時代から、ワープロやその後の PC の登場による原稿作成作業の効率化とオンライン投稿の拡大でかつてとは大きく様変わりした。今や、投稿にかかる必要項目が増え、苦勞して投稿しても、息つく間もなく数日を経ずして「Reject」メールを受け取った時など大いに力が抜け、立ち直るのに暫し時間がかかる場合もあります。大学院生セミナーでは、PC や iPad で論文ファイルを持参して臨む学生も増えてきましたが、私の場合やはり学術論文を読む際には慣れもあるせいか印刷して紙媒体という方がどうしてもしっくりくる。余白にメモしたり、蛍光ペンでハイライトしたりという手仕事も含め「読む」という作業には紙を手にした方が圧倒的に馴染みます。今やかつての紙媒体のみの学術論文も急速に電子化が進んでいるが、この電子ファイルの保存も永久にとはいかないようで、やはりこれまでの図書館での「紙」での蓄積も大事に守っていかなければならないと改めて感じています。

これまでの何度かの引っ越しで、かつての「紙」は大幅に減らさざるを得なかったが、思い入れがある論文は捨てられないものもあり、時間を経た「紙」ならではの重みが手から伝わって来るようで、別の意味で何とも悩ましい限りである。

(かしわくら いくお)

第1回POPコンテスト



POP コンテストは、平成 17 年～24 年度に開催された弘前大学学生『言語力』大賞コンテストの後継事業として、図書館の利用促進及び読書推奨を目的として開催しました。

募集期間は、6 月 22 日から 7 月 31 日とし、40 点の応募がありました。応募作品 40 点を本と一緒に展示し、図書館利用者（学外者を含む）による投票によって 6 点が選ばれました。大賞は『話し方入門』（D・カーネギー著）の POP を書いた理工学部 4 年の本間弘樹さん、デザイン賞は『コミュニケーションをデザインするための本』（岸勇希著）の POP を書いた人文学部 3 年出川綾子さんが受賞し、佳作を 4 名が受賞しました。

表彰式では、郡館長から一人ひとりに表彰状が手渡されました。受賞者からのコメントとして、「この本は広告、PR の方法について書かれた本だが、それ以外でも普段の生活にも生かせる本」（出川綾子さん）、「数学を面倒くさいと思っている人でも、数学が楽しいと思えるようになる本。デザインのテーマとしては、みんなが楽しくなる、好きになるということに重点を置いて作った」（山本健太郎さん）、「この本は大学生と同年代の 4 人の青年達が、価値観やアイデンティティをしっかりとって生きていく中で、社会の苦悩や挫折を描いた作品。自分のことを振り返り、感動した話なので是非読んで欲しい」（福士開さん）、「私の一押しである志村真帆さんの本を POP でアピールした。著者の志村さんが静岡県出身なので、静岡から見た富士山と、湖面に映る逆さ富士を描き、本の表紙の青色と合わせたポップな POP を作った。この本は数学の堅い参考書ではなく、お菓子の詰め合わせのよう。理系文系問わず、読んで欲しい」（近藤美左紀さん）といった本に対する熱い思いが語られました。

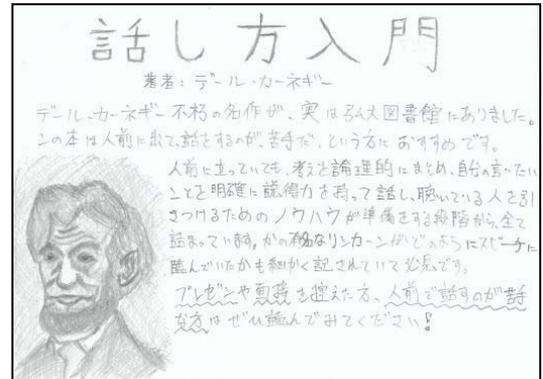
大賞

理工学部4年 本間 弘樹さん 「話し方入門」

私は POP コンテストの応募締め切り前日に職員の方に勧められたのがきっかけでこのコンテストに応募しました。日ごろから図書館を利用することが多く、頻繁に図書を借りています。今回の POP コンテストの他作品を見てみると、分野問わずいろんな本が置かれており、普段目にしないような本もあって大変興味をそそりました。

コンテストの紹介文にも書きましたが、今回私が紹介した「話し方入門」は主に集団の前で話すのが苦手だという方や発表、面接を控えた方に読んでほしいです。私自身も4年生になってから人前で発表する機会が増え、この本を読んで得たものを活用しています。この本は元々大衆の前で良い演説をするにはどうしたらよいかを過去の偉人の例も踏まえながら細かく説明しています。各章のエッセンスを活用すれば、集団の前で話すことにどう向き合えばいいかが見えてくると思います。

この本は実は私が図書館の利用希望図書の申請をして置いてもらった本です。この利用希望図書制度は私の今までの経験上教養につながるであろう本なら大抵は申請が通るので、知らなかった方はぜひ図書館に問い合わせしてみてください。



デザイン賞

人文学部3年 出川 綾子さん 「コミュニケーションをデザインするための本」

このたびは、『デザインをコミュニケーションする本』でデザイン賞をいただけたこと、とても嬉しく思います。投票して下さった方々に、感謝申し上げます。

POPを制作するうえで意識したのは、「まず、目に留めてもらうこと」でした。

図書館を利用する学生のタイプはさまざまです。学部や学年はもちろんのこと、興味関心の対象もそれぞれ異なります。だからこそ、特定の分野に偏ることなく、幅広い層に響くようなデザイン作りを心がけました。1人

でも多くの印象に残るように。印象的なPOPがきっかけとなって、本を手にとってから読むまでのハードルが低くなるように。そういった思いを持ちながら構想を練っていきました。

パッと見て目に付くよう、色は鮮やかなピンクと白の2色のみとしました。モチーフは、冊子中のアイコンであるハートを用い、実際の本との連携も感じられるデザインを目指しました。ハートは一部のみを使い、POP上部に余白を残すことで、コミュニケーションが持つ可能性を表現しました。

今回のPOPコンテストは、人の心に残るものとは何か、じっくり考える良い経験となりました。制作中だけでなく、投票期間中もたくさんの気づきを得ることができました。このような機会を提供していただき、本当にありがとうございました。



佳作

理工学部2年 山本 健太郎さん
「数学ガール」

私の信条の一つに「生きるのに必要なことでなければ、つまらないことはやらない」というものがある。ここで困るのが、「生きるのに不必要な上につまらないけれども、やらなくてはならないこと」が人生には数多くあるということだ。そしてその一つは自分の興味のない分野の勉強だろう。こと数学においては多くの人がそうなのではないか。

この『数学ガール』は数学に対する意識を「つまらないかな」から「ちょっと面白いかな」に変えてくれる『本』である。読書というのは知識の獲得の他に、自分の意識を

「つまらない」から「面白い」に変えて、より愉快的な人生に誘ってくれるものだと思う。そういった読書をさせてくれる『本』を探す時に、他人から薦められた本を選択するのは良いことだ。理由なく本を薦める人間はいない。その人がその本のどこに惹かれ、どのように愉快的な人生を送ることになったか想像しながら読むのも一興である。この文を読んでくださった方が『本』に出会って愉快的な人生を送ること、『本』を誰かと教えあってくれることを私は願う。

最後に、私のPOPを見てくださった方々、『本』を紹介してくださったPOPコンテストの参加者の方々、企画運営に携わられた図書館の方々に深く感謝する。



佳作

教育学部4年 福士 開さん
「三島由紀夫 全集 第7巻 鏡子の家」

『鏡子の家』という作品は、自分の価値観やアイデンティティを強く持っている4人の青年の苦悩や挫折、戦後日本を生きる人々の空虚さや虚無感を書いた物語です。現代を生きる私たちが無軌道に、無目的に生きているのではないかと問いかけてくる作品であり、主要な登場人物である青年たちと年齢が近い大学生に読んでほしいと思って、紹介しました。

POPを作成するに当たり、どうすれば人の目を引くものに仕上がるかを考えることが難しかったです。ただあらすじや自分の感想を書くのではなく、どのような見出しが目を引くか、文字や絵をどういう色遣いにするか、文章の量はどれ位にするかなど苦心しました。

デザインをどうするか考えたとき、三島由紀夫といえば新潮文庫の表紙の旧デザインの印象が自分の中で強かったため、その表紙をオマージュしたデザインにしました。イラストは三島作品のエキゾチックな雰囲気を出すために、屋敷と主人公の鏡子の横顔をシルエットにしました。

第1回POPコンテストにおいて佳作を受賞したこと、非常にうれしく思うと同時に、投票していただいた方、POPを見てくれた方、主催して下さった附属図書館関係者の皆様に感謝を申し上げたいと思います。



佳作

教育学部4年 小笠原 銀河さん 「不思議の国のアリス」

以前から本を読むことが好きで高校生の時は図書委員会に所属しており、図書委員会の仕事の一環として図書館の本のPOPを制作することもありました。今回弘前大学附属図書館でこのようなコンテストを開催すると知り、当時を思い出してまたPOPを制作してみようと思い応募しました。

今回選んだルイス・キャロル著『不思議の国のアリス』は様々な映像化作品やオマージュ作品などがあり、映画やアニメーション作品を見たことがある方は多いと思います。ですが、この本に登場する現実ではありえないような不思議な生き物や世界観を、文章を読みながらゆっくりと自分のペースで想像しファンタジーの世界に浸ることができるのが原作の『不思議の国のアリス』の、そして読書の楽しさだと思い、映像化された作品しか見たことがない方々にもこのPOPを通して興味を持ち、原作を読んでみて欲しいと思いました。そのため、POPを制作するにあたり図書館に来た方が目に留めてくれるよう、POP全体の色合いを主人公アリスのエプロンドレスから連想される水色でまとめつつカラフルなトランプ模様を全体に配置し、大きく本のタイトルとアリスのイラストを描くなどの目を引く工夫をしました。



佳作

理工学部4年 近藤 美左紀さん 「線形代数演習帳：スマート解法」

▽POP作成にあたって

「なんちゃって理系」で、いつも数学の単位がギリギリ。最初は、必要に迫られてこの本を読んだわけですが…。何のための計算をしているのかがわかり、数学が嫌いになくなりました。同じようにつまずいている人に、こんなやり方もあるよ!とおすすしたいのです。期間中しばしば貸し出しになっているのを見かけ、嬉しくなりました。

▽教え方の参考にも

教職を目指している人にも薦めたい旨を書きました。この著者の説明の仕方は独特です。例えば、公式を暗記させるということがなく、自分の言葉で理解できるように書かれています。教える人の視点で読んでも、発見があると思います。

▽お菓子屋さん

POPコンテストは夏からの開催だったので、みずみずしい洋菓子が度々登場するのを推しておきました。

▽デザインについて

本のカバーに倣い、空色をテーマに、著者の出身地・静岡県から見える富士山を中央に配置しました。カバーつきで見た方は、シェリアまでどうぞ。



本との出会いを楽しむ 第15回

畠中 恵のファンですけど、なにか？

理工学研究科（自然科学系）教授 笹川 和彦



私にとって読書は専ら、就寝前の睡眠導入と出張往復の暇つぶしのためのものです。といっても、私にとってなくてはならない生活の一部となっています。読んでいて楽しい本があると、早くベッドに入って寝る前のわずかな時間をわくわくして過ごすことができますし、出張往復のともすればイライラしそうな時間もリラックスして過ごすことができます。こういった目的で読書をするので、どうしても文庫本を好んで買います。後で紹介する好きな作家の本も文庫本になるまで我慢します。つまり、ポケットに入る精神安定剤のような存在です。

出張先の駅や生協の本屋さんの店頭に並んでいる文庫本の表紙を眺め、目にとまった本の裏表紙のあらすじをざっとみて文庫本を漁ります。ですから意識的ではないのですが、流行の本を買うことが多くなります。ジャンルのには推理小説や歴史小説、本当の精神安定のための思考ハウツー本が結果的に多くなっているようです。

そのなかで私は、畠中 恵さんの時代物の小説「しゃばけ」シリーズ、「まんまこと」シリーズが好きです。非常にかわいらしいカバーに内容もファンタジーなものなので、おじさんが紹介するのもたいそう恥ずかしいのですが、振り返るとここ数年、シリーズの続き物が単行本で出版されるごとに文

庫化するのを待ち望んでいることに気づきました。

「しゃばけ」シリーズは、江戸時代の薬問屋の長崎屋が舞台です。若旦那と長崎屋の離れに居候するあやかし（妖怪）たちが主人公です。「まんまこと」シリーズは、これも江戸時代の町名主の息子麻之助とその友たちが主人公です。いずれも江戸の町に起こるいろんな問題・事件を解決していくものがたりです。NHKやフジテレビでドラマ化されているので、観たことがある人も多いかもかもしれません。あやかしの不思議な力や麻之助の鋭い推理力もさることながら、それらを引き出すための強い友情や愛情が描かれていると思います。

推理小説であり、詳細な調査に基づく歴史小説でもあり、ファンタジー小説でもあり、ヒューマン小説でもある、私の好きな小説の要素を全て含んでいるので、恥ずかしさにも負けずつついつい買ってしまうのでしょう。日頃の面倒事から全く現実逃避してリラックスするために、私にはなくてはならないものになってしまったようです。

実は生協の店員さんにも私が畠中 恵さんのファンであることがばれています。新しい小説が文庫本になると知らせてくれたりします。また新しく続き物が文庫本になったら、こっそり教えてくださいね。

（ささがわ かずひこ）

図書館に関する話題 第15回

大学で利用する電子書籍サービス

学術情報課資料管理グループ図書情報担当 齋藤 香織

電子書籍元年と言われた 2010 年より 5 年が経ち、電子書籍もそれなりに身近に感じられるようになりました。皆さんがふだん利用する電子書籍は、どういったものでしょうか。

個人利用の電子書籍は、個人の PC やタブレットにダウンロードして使うものが多いかと思います。オンラインですぐに入手可能という手軽さもありますし、価格も紙の図書と同額か、少々安いぐらいです。タブレット等で利用する場合は、何冊分ダウンロードしても重さもサイズも変わらないので、持ち運びに便利です。コミック、雑誌、実用書といった分野が売れ筋でしょうか。

それでは、大学で利用する電子書籍は、個人利用の電子書籍とどう違うのでしょうか。

大学で提供される電子書籍は、電子ジャーナルのように出版社等のサーバにアクセスするという方式が主流です。IP アドレスでアクセス制御する方式なので、大学内ならどこからでも 24 時間利用できます。ダウンロード式の電子書籍もありますが、ユーザ数に見合うだけのハードウェアと、更にハードウェア数に対応したコンテンツ代がかかり、結果的に膨大な費用になります。実験的に教科書として電子書籍を採用し、授業を行っている大学の事例もありますが、やはり費用の面で全学的に導入するのは難しいようです。

コンテンツについては、大学において主な購入対象となる学術書（特に和書）は、あまり電子化が進んでいないのが現状です。コンテンツは徐々に増えていくと予想されていますが、電子化を始

めたばかりの出版社では、過去に出版した膨大な図書のうち、どれを電子化すべきか判断に困るといふこともあるでしょう。むしろユーザの声が求められています。

一方、海外の大手学術出版社では、ここ数年、新刊書は冊子と電子でほぼ同時に出版され、価格も同じくらい、同時アクセス無制限、ということが多いです。アメリカにおいては、日本とは比較にならないくらい電子書籍の普及が進んでいると言われています。

電子書籍には、検索機能、しおりやマーカー、本文の一部ダウンロード、といった便利な機能があります。特に、同じ出版社の電子ジャーナルや複数の図書を、一つのキーワードで同時に検索できるため、特定の事柄を調べるのに威力を発揮します。対して、1冊の図書を通して読むのには紙の方が適していると言われています。しばらく前の出版業界では、いずれは全ての図書・雑誌が電子化され、紙の本は無くなるという話がありましたが、現在では、当分は紙の図書と電子書籍の共存が続くのでは、という見方が強いようです。

弘前大学は今まで、電子書籍の導入については消極的な方でしたが、今後は電子書籍を積極的に導入していくことを検討しています。利用が多いと思われる分野（医学、心理学、語学、数学、物理、化学等）を中心にタイトル数を増やしていく予定です。既に導入済のタイトルもありますので、ぜひ使ってみてください。

（さいとう かおり）

＜弘前大学で電子書籍を利用するには＞

- ① 附属図書館 HP の情報検索「電子ブック」より、各提供元のリンクをクリック→一覧表示またはキーワード検索で利用したい電子書籍を選択
- ② 図書館 OPAC で詳細検索を選択→フォーマットで「電子ブック」にチェック→キーワード、著者名等を入力→検索ボタンをクリック ※洋書は OPAC 未登録
- ③ データベースとして契約しているメディカルオンライン、ジャパンナレッジにも利用可能な電子書籍が多数入っています。図書館 HP よりアクセス可

また、総合情報処理センターでSSL VPN申請（オンラインで申請可能）をすれば、弘前大学内での利用と同じ環境になり、学外から電子書籍を利用することができます。

附属図書館HPの一部

情報検索

- Webcat Plus 連想×書棚
- CiNii Articles 日本の論文
- 朝日新聞記事検索(同時)
- 読売新聞記事検索(同時)
- 国内医学論文検索(同時)
- 国内医学論文検索(学内限定)
- 臨床情報検索(本町地区限定)
- 日本法総合オンラインサービス
- 辞書・事典総合データベース
- 数学文献検索(学内限定)
- 引用文献検索(学内限定)
- フルテキスト
- 電子ブック /
 - ① eBook Collection (EBSCOhost) [IIBNetL]
 - Maruzen eBook Library (丸善) (学内限定)
 - Infobase 多読リーダー電子ブックコレクション
 - ScienceDirect eBooks (学内限定) [利用]
- 国立国会図書館サーチ
- 弘前大学研究成果検索・Vシステム(紀要)
- 弘前大学学術情報リポジトリ / JAIRO
- CD-ROM・DVD一覧

OPAC画面

弘前大学附属図書館OPAC

検索

CiNii Books CiNii Articles WebcatPlus NDL Search

同じキーワードで他のサイトを検索できます。

② 詳細検索

タイトル:

フルタイトル:

著者名:

出版者:

ISBN / ISSN / 書誌ID / 資料ID:

出版年:

フォーマット:

- 図書
- 雑誌
- 電子ジャーナル
- ② 電子ブック
- 視聴覚資料
- 楽譜
- コンピュータファイル
- 静止画像
- 地図
- マイクロ資料
- その他

【問い合わせ先】 研究推進部学術情報課（附属図書館）

TEL：0172-39-3156

E-mail：jm3156@hirosaki-u.ac.jp（@は半角）

他大学図書館紹介

放送大学青森学習センター図書室

放送大学青森学習センター所長 倉又 秀一

放送大学青森学習センターは、弘前大学文京キャンパスの「コラボ弘大」7階に位置しており、図書室もその一角にある。

学習センターの図書室は、放送大学の授業の再視聴施設(CD、DVDのプレイヤー)を備えているのが、普通の図書館と異なる点である。放送大学は通信制の大学で、テレビ・ラジオの放送で講義を聴き、印刷教材で勉強して学んでゆく。何かの都合で、放送を聞き逃した時、学習センターに備えてある講義のDVD、CDを視聴して補うことができる。もっぱら学習センターで講義を視聴する学生もいる。しかし、近年放送大学では講義をインターネットでも配信するようになり、時間に制約されずに、講義を視聴できるようになっている。さらに、インターネット環境がそろわなくとも、テレビ・ラジオの録画・録音が容易になってきたので、学習センターに来なくとも、学習を進めていくことができるようになってきている。

学習センターには、印刷教材もそろっていて、自分が次に何を学ぼうかという時、DVD・CDを視聴しながら、参考にすることができる。インターネットでは、自分の登録した科目しか視聴することができない。探していた本の隣にさらに興味を

引く本があったりするの、図書館で調べ物をする時の楽しい点だが、印刷教材の棚をみている、思わぬ講義に興味を引かれるかもしれない。

講義のインターネット配信に対応して、視聴用にノートPCが3台そろえられている。放送大学の本部には、大きな附属図書館があるが、オンラインで利用できる電子ブックなどの導入を進めており、学生はそれらを閲覧するためにも利用されている。また、附属図書館で発行している「リブナビプラス|院生のための学術情報探しガイド」は、教員が学生にその時その時で教えることがまとまっていて便利である。通信制の教育であるが故の配慮である。

放送大学の印刷教材以外の図書も備えられている。調べ物をしたりするために、辞典・事典も揃っている。これらには、大きい字の版がそろえられているものが多い。生涯学習を目的にした年配の方の受講が放送大学では多いが、そのための配慮であろう。私としても、漢字を調べる時助かった覚えがある。

学習センターの図書室は、とても小さいスペースだが、配架された教材や本部図書館を通じて大きな宇宙につながっている。



視聴学習室



講義が収録されたDVD

Library News

第56回特定非営利活動法人日本医学図書館協会東北地区会総会を開催

本総会は、平成27年10月30日（金）、弘前大学附属図書館医学部分館を当番館として弘前大学医学部コミュニケーションセンターを会場に加盟館8大学から館長（分館長）及び主任司書12名が参加して開催されました。

議事に先立ち蔵田分館長から開会挨拶があり、会則に基づき議長に当番館の蔵田分館長が選出され、出席者の自己紹介の後、議事に入りました。

報告事項、協議事項、承合事項等は以下のとおりです。

報告事項：①平成26年度東北地区会運営費収支報告 ②NPO法人日本医学図書館協会評議員会報告
③各館の近況報告 ④2015年度第1回地区会事務局連絡会の開催

協議事項：①NPO法人日本医学図書館協会次期地区評議員（館）について ②NPO法人日本医学図書館協会総会ホームページ担当ワーキンググループ2016～17年度担当者について ③次期当番館について

承合事項：①看護師・看護学生向けのサービスについて ②図書館内の職員のスキルアップについて 研究費で購入している外国雑誌の扱いについて ③医学生に対する講習会やガイダンスなどについて ④図書館に備え付ける学生用図書の選書方法について ⑤電子ジャーナルの管理及び運営方法について

次期評議員（館）については、福島県立医科大学附属学術情報センターを選出、次期当番館については、青森県立保健大学附属図書館を決定し、会議を終了しました。

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成27年4月～平成27年9月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	数	所蔵先
人文学部	関根達人	越前三国湊の中近世墓標	関根達人研究代表（科研費研究成果報告書）	1	本館 1
	上條信彦	亀ヶ岡文化の低湿地遺跡：秋田県戸平川遺跡、青森県亀ヶ岡遺跡・石郷遺跡群・八幡崎(1)遺跡・羽黒平(3)遺跡ボーリング調査報告書	弘前大学人文学部北日本考古学研究センター	1	本館 1
		亀ヶ岡文化の漆工芸：青森県板柳町土井(1)遺跡漆製品の自然科学・保存科学的研究		1	本館 1
		日本の出土米		1	本館 1
	須藤弘敏	かわいい仏像たのしい地獄絵：素朴の造形	パイインターナショナル	1	本館 1
保田宗良	公共交通を活用した中弘南黒地域活性化の研究：2014年度弘前大学人文学部学部戦略経費チーム研究報告書	小野印刷	1	本館 1	
教育学部	今田匡彦	哲学音楽論：音楽教育とサウンドスケープ	恒星社厚生閣	1	本館 1

医学研究科	廣田和美	研修医のための携帯エコー活用法	克誠堂出版	1	分館 1
		全静脈麻酔 PRK の実際	克誠堂出版	1	分館 1
弘前大学出版会		がんばる のだ	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		知能機械工学実験・実習テキスト A	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		知能機械工学実験・実習テキスト B	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		たのしく学べるミネラル講座	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		白神学入門	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		複素関数入門 = Introduction to complex functions	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		りんごをアップルとは呼ばせない：津軽りんご人たちが語る日本農業の底力	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
		ベトナム農村の組織と経済	弘前大学出版会	3	本館 2 分館 1
男女共同参画推進室	山下梓	知識基盤社会におけるアカデミック・インテグリティ保証に関する国際比較研究	労働教育センター	1	本館 1
		セクシュアル・マイノリティ白書	つなかんばにー	1	本館 1
白神自然環境研究所		「弘前大学白神教育研究林の活用による自然環境教育の流れ」報告書	弘前大学白神自然科学研究所文部科学省特別経費(プロジェクト)事業	1	本館 1
ボランティアセンター		チーム・オール弘前の一年：明日へ一緒に歩む野田村復興支援・交流活動の記録	弘前大学ボランティアセンター	2	本館 2
学務部		青森ブランドの価値を創る地域人材の育成 事業成果報告書	弘前大学 COC 推進室	1	分館 1
元教員	植木久行	中国詩文論叢：植木久行教授退休記念	中国詩文研究會	1	本館 1
		中国詩跡事典：漢詩の歌枕	研文出版	1	本館 1
	山辺英彰	腎臓内科ハンドブック	中外医学社	1	分館 1
弘前大学生生活協同組合		弘前大学卒業記念アルバム	弘前大学生生活協同組合	1	本館 1



弘前大学附属図書館報「豊泉」第42号 発行日：平成27年11月30日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会

発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>